

「今日から始める GX 推進セミナー」 第2回 を実施しました！

- 1.日時 令和6年10月24日(木) 13:30~15:30
- 2.場所 富山県民会館 302号室(富山市新総曲輪4番18号)
- 3.内容

(1) 富山県版「GX 取組み手引書」説明

説明者：(株)北陸銀行 経営企画部 サステナビリティ推進グループ長 島田 善朗

(2) グループディスカッション／発表 (70分)

(3) 講評：富山県知事政策局成長戦略室 前山 巖

第1回に引き続き、県内企業の実務担当者、省エネコンサルタント、関係団体や自治体の脱炭素担当者の皆様にご参加いただきました。

(1)富山県版「GX 取組み手引書」について

第1回セミナーで配布した「GX 取組み手引書」(第1案)について、ご参加いただいた実務担当者の皆様からご意見(追加してほしい情報や修正点等)をいただき、(第2案)へと反映しました。

参加者の皆様からいただいたご意見からは、脱炭素の推進にあたって企業が直面している様々な課題が伺われました。

「ノウハウの課題」

どのように算定し、目標設定、計画立案を行うかが難しい 等

「社内啓発の課題」

GX を理解している人が少ない、利益重視のため脱炭素の優先度が低い、
役員の理解を得ることが難しい、社内全体の意識改革が必要 等

「費用対効果の課題」

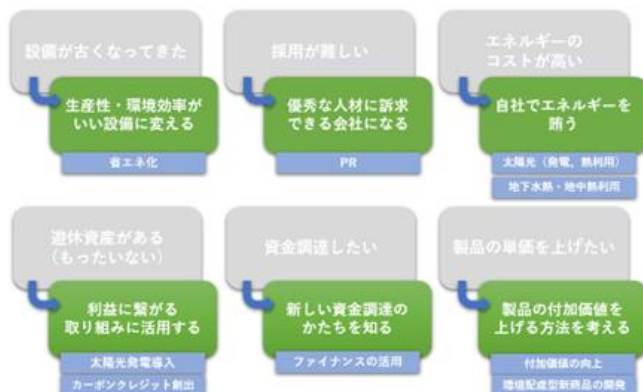
省エネ・再エネ推進に費用がかかる、効果の検証にも時間と費用がかかる、価格転嫁が困難 等

「サプライチェーン管理の課題」

Scope3に目を向けると対象企業数が膨大、下請けを巻き込んだ適確な現場管理が困難 等

脱炭素経営を活用しよう

経営課題を脱炭素経営により解決に繋げていくことにより+αの価値が出てきます。



脱炭素の推進における様々なハードル、悩みが伺えますが、本手引書では、「設備更新」「コスト削減」「人材確保」「資金調達」「売上向上」等、企業が日常的に直面している主要な経営課題を解決する“切り口”として「脱炭素」「GX」を戦略的に活用することを提唱しています。

「脱炭素経営を活用しよう」
手引書(第2案)より抜粋

(2)グループディスカッション

各グループで、前回セミナーの事後課題であった「自社の GX の取組状況」「取組みにあたっての課題」「課題解決のための工夫」について情報共有を行い、代表者からご発表いただきました。



発表内容（概要）

	現状の取組み	課題	解決策や 今後の取組検討事項
知る	<ul style="list-style-type: none"> ・企業方針として社長発信 ・専門部署の設置 ・専任を置くのが困難なのでセミナーやeラーニングで情報収集 	<ul style="list-style-type: none"> ・意識改革、社員への周知 ・危機感がない、現場の認識 ・GX推進による企業メリットを数値化することが困難 	<ul style="list-style-type: none"> ・社内教育(資格の取得促進等) ・トップダウン/トップへの説明力 ・国や県の動きを活用 ・排出量削減と企業メリットのリンク
測る	<ul style="list-style-type: none"> ・外注、ソフトの導入 ・データをエクセル管理 ・Scope1, 2は実施、3は未実施 ・SBT取得に向けて着手 	<ul style="list-style-type: none"> ・イニシャルコスト ・総量は把握しやすいが、個別事業の把握が困難 ・社内へのデータ共有や活用 ・上下流の理解(Scope3) 	<ul style="list-style-type: none"> ・データの社内共有、削減の取組み ・補助金の活用 ・手引書を活用し上下流へ波及 ・コンサルへ依頼
減らす	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネ運用(節電、エコドライブ等) ・設備更新時の省エネ化やLED化 ・再エネの導入 ・建設現場での化石燃料削減 	<ul style="list-style-type: none"> ・イニシャルコスト ・費用対効果 ・技術的課題(太陽光設置不可等) ・企業の+@にどうつなげるか 	<ul style="list-style-type: none"> ・費用をいかに成長につなげるか ・目標の設定 ・中長期計画への盛り込み(建屋改修に併せた省エネ化・再エネ導入等) ・クレジット購入 ・燃料転換
創る	<ul style="list-style-type: none"> ・再エネ導入 など ・あまり取り組めていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・取組み、データ取得のための人手 	<ul style="list-style-type: none"> ・県や国の制度の活用 (PRIに協力してほしい)
開示する	<ul style="list-style-type: none"> ・HPでの開示 ・カーボンフットプリントの可視化 	<ul style="list-style-type: none"> ・HPだけではPRにつながらない ・数字の正確性 	<ul style="list-style-type: none"> ・GX製品の価値づけ、差別化

コメントなど

- ・ 費用について、「コスト」と捉えるか、「投資」と捉えるかで、マインドセットが異なってくる。
- ・ 取引先からの要請、入札における加点要件等、機会喪失のデメリットを回避するための脱炭素の取組みは比較的進んでいる。一方で、社会課題(社会ニーズ)への対応として取り組むことは、自社の付加価値を向上し、売上につながる。後者については企業戦略であり、自らで考えていけないといけない。
- ・ 開示する(顧客や社会へのアピール)は、すでに海外では相当に重視されている。こうしたアピールを苦手とする企業も多いが、付加価値をしっかりと見せていく必要がある。

～今後のご案内～

「今日から始めるGX推進セミナー」(令和6年度)は、第2回をもって終了しました。セミナーの内容について詳しくお聞きになりたい方は、県カーボンニュートラル推進課(076-444-9676)までお問合せください。また、現在作成中の 富山県版「GX 取組み手引書」については、完成次第、公表・配布して参ります。

※ 「GX 取組み手引書」について

世界的にカーボンニュートラルの実現に向けた動きが活発化するなか、大企業だけではなく中小企業においても「脱炭素」への要請・期待が高まっています。一方、県内の多くの企業が、対応の必要性を認識しつつも、「何から始めたらよいかわからない」等の理由から排出量の把握や削減の取組みの実践に至っておらず、対応の遅れに伴う競争力の低下、経営への影響などのリスクが懸念されています。

そこで、県では、企業が GX 対応に踏み出す後押しとして「GX 取組み手引書(仮称)」を作成したいと考えております。簡易的な排出量の算出方法や、削減に向けた様々な取組事例の紹介などを盛り込み、幅広い業種の方に本手引書をご活用いただき、各企業の取組みの実践、脱炭素経営への移行を促し、取引先事業者や消費者から選ばれる存在として、持続的な成長を実現することを目指します。